

---

# キミの笑顔がみたいから

ただゆ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

キミの笑顔がみたいから

### 【Nコード】

N9952A

### 【作者名】

ただゆ

### 【あらすじ】

中学校時代は、夢中になれる事が無かった主人公が、高校で一人の人と出会い恋におち、成長していく恋愛物語

## 一章 出会い

### プロローグ

あの頃の僕は誰かのために必死になることはなかった。

そんなのありえないと思っていた。

そう、君に出会うまでは。。。

君は僕に教えてくれたね。人はこんなにも誰かを愛し、幸せになれるということ。。。

でも、そんな君に僕は何かできたかなあ。ああ、君の笑顔がもう一度みたい。。。

一章 ～出会い～

眩しい日差しが部屋に差し込む。新しい光と春の匂い。

今日は入学式。

僕の名前は（唐沢 翔）

中学校時代の僕は、部活動に勉強と、特に取り柄もなく平凡な毎日を送っていた。だから、高校生活に何か期

待感を抱いているわけでもなかった。。。「おーい！翔

！！」

外から声がした。窓を開けてみると、中学校からの友達、

（要 功汰）がいた。学校に着いた。

見知らぬ人たちが次々に校門に入っていく。！クラス発表の紙見つけたぞ！」

功汰は目を輝かせながら言った。

僕は、自分と功汰の名前を探した。

先に見つけたのは功汰だった。

「マジかよ、俺たち一緒じゃねーよ。しかも俺、一組で翔が八組ってことはクラス遠すぎじゃん！」

「まあ、たまには行くから頑張ろうぜ！」

そういつて自分のクラスに行った。

入って座席表を見て自分の席に行くとすでに誰かが座って音楽を聴

いていた。

「おい。そこ俺の席じゃねえ？」  
勇気をだして言ってみた。

するとそいつはイヤホンを外した。

「は？何？」

なかなか、いかつい。。

「そこ、俺の席じゃねえ？」

「えっマジで？」

「あつ、間違えた。ごめんな」

「いいぜ！てか俺、唐沢翔て言うんだ、よろしくなあ」

「おー。。俺、斎藤友希、よろしく」

これが親友、友希との出会いだった。

僕は、HRが始まるまで、語りあった。そして、HR。担任の話は、つまらなくて、あまり聞かず、うるちよる周りを見わたしていた。

ふと横を見ると、僕は、その人に釘付けになった。

そうその人が僕が心の底から愛した人 相田未来

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9952a/>

---

キミの笑顔がみたいから

2011年2月1日04時21分発行